
クリニックの外来診療

クリニック部門の活動

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック

はじめに

東京都予防医学協会保健会館クリニックは一般的なクリニック活動とはややその内容を異にしている。主たる活動内容は一般外来、専門外来、老人保健法による地域住民(新宿区)の健康診査およびがん検診の実施である。一般外来は地域住民の診療および、職域での定期健康診断後の診療と事後指導を実施している。

専門外来は消化器(胃)、循環器、心臓精検、糖尿、腎臓、肝臓、呼吸器、整形、乳腺、婦人科(子宮がん)、甲状腺、更年期、および心療内科の計13科と小児相談室で構成される。専門外来受診者は東京都予防医学協会(以下「本会」)の1日人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診断、学校保健法による児童・生徒の健康診断、老人保健法による健康診査などで要精密検査と判定された人で、当クリニックの受診を希望された場合、または一般外来で専門外来

の受診を必要とされた人を対象にクリニック常勤医師、および外部(東京医科大学、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、昭和大学医学部、慶応義塾大学医学部、癌研究会付属病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医が診療にあたっている。

2004年度の実績

表1に2004年(平成16年度)の外来受診実績を示す。総受診者は18,160人である。2003年度の総受診者は20,468人であり、2,308人の減少(減少率11.3%)である。経年的に減少傾向にあり、医療機関一般に共通することであるが、厳しい時代の反映と考えられる。総受診者のうち一般内科は17.4%、専門外来は82.6%の頻度である。専門外来で最も多いのは消化器(胃)27.4%であり、ついで甲状腺外来で19.7%を占める。

表1 クリニックの月別・科別受診者

		(2004年度)												
科目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	一般内科		256	232	278	256	189	239	274	269	262	254	346	311
専門外来	消化器(胃)	402	261	327	380	313	318	327	346	341	376	394	328	4,113
	循環器	103	73	101	86	97	97	104	99	105	92	108	124	1,189
	心臓精検	1	4	3	4	3	3	2	7	2	7	2	0	38
	糖尿外来	59	54	48	49	72	59	56	65	45	41	68	36	652
	腎臓外来	9	13	10	13	12	11	10	14	16	11	13	15	147
	肝臓外来	54	57	35	49	47	36	42	41	38	46	38	50	533
	呼吸器外来	34	34	44	51	38	51	45	43	46	24	24	27	461
	整形外来	10	14	15	11	12	13	13	14	9	15	14	12	152
	乳腺外来	141	103	129	128	116	145	127	114	138	114	126	174	1,555
	婦人科(子宮がん)	230	169	194	224	244	219	186	186	173	151	174	208	2,358
	甲状腺	219	207	270	288	256	233	257	197	307	222	214	286	2,956
	更年期	42	29	28	40	27	30	28	61	33	33	30	25	406
	心療内科	42	28	53	29	36	33	27	37	32	29	38	36	420
外来栄養指導		1	0	3	2	2	2	0	0	0	1	1	2	14

表2に消化器外来における胃内視鏡検査月別実施数を示す。公費扱い分537人、保険扱い分1,086人、計1,623人であり、これは前年度1,531人よりやや増加(増加率5.7%)している。このうち生検数は公費扱い分233人、保険扱い分504人、計737人、生検率45.4%であった。

表3に年度別消化器外来の実績を示す。

前年度に比較して消化器外来受診者は微減にとどまったが、腫瘍発見数は10例(発見率0.24%)であり、前年度18例(同0.42%)に比べると低値であった。生検からの腫瘍(がん)発見率は1.36%である。

甲状腺外来は開設後、5年目を迎えた。担当医は、百溪尚子医師一人である。

百溪尚子医師は世界的に有名な甲状腺学者であり、それを慕って多くの患者が来院する。

循環器外来は職域定期健康診断や、1日人間ドックで要精密検査、要受診と判定された人のうち、当クリニック診療希望者や地域の高血圧、心臓疾患患者を診療している。

肝臓外来はB型肝炎、C型肝炎、アルコール性肝炎ならびに脂肪肝などを対象とするが、特にC型肝炎には順天堂大学医学部付属病院から依頼された症例にインターフェロン療法、強ミノC療法を実施している。

腎臓外来は蛋白尿、尿潜血陽性者などを対象に腎疾患早期発見や慢性腎炎、ネフローゼ症候群などを対象とする腎疾患管理を実施している。

婦人科外来は東京産婦人科医会の会員より紹介された受診者、および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のパパニコロウ分類Ⅲa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査、細胞診、組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている。

呼吸器外来はマルチスライスCTを用いて早期肺が

ん発見を目標に診療を実施している。

乳腺外来は東京産婦人科医会の会員より紹介された受診者および地域住民、職域を対象に実施した乳がん検診で要精密検査と判定された受診者を対象に視触診、乳房X線検査(マンモグラフィ)、超音波検査、乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診などにより、質的診断を実施している。

更年期外来は通常の診察室で更年期障害を訴える女性を対象に診療を実施している。

表2 胃・内視鏡検査月別実施数

		(2004年度)												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
集 検	外 来	17 (17)	40 (40)	36 (36)	54 (54)	43 (43)	27 (27)	44 (44)	58 (58)	90 (90)	35 (35)	38 (38)	55 (55)	537 (537)
	計	130	108	119	142	138	104	132	144	136	146	163	161	1,623
実 施 数	外 来	113	68	83	88	95	77	88	86	46	111	125	106	1,086
	計	130	108	119	142	138	104	132	144	136	146	163	161	1,623
	生 検	53 (5)	33 (15)	41 (10)	32 (1)	44 (16)	39 (11)	38 (13)	42 (31)	20 (41)	53 (17)	53 (13)	40 (24)	488 (197)
腫 瘍 発 見 数	外 来	1	1	1	1	1	0	2	2	0	0	1	0	10
	計	1	1	1	1	1	0	2	2	0	0	1	0	10

うち()は公費扱い分

表3 年度別の消化器外来の受診者数と内視鏡件数・生検数・発見腫瘍数

(1983~2004年度)				
年 度	消化器外 来受診者	胃内視 鏡件数	生 検 数	腫 瘍 発 見 数
1983年度	3,231	408	40	13
1984	3,064	398	58	11
1985	3,795	366	148	8
1986	3,634	326	135	15
1987	3,611	313	80	12
1988	4,778	554	194	13
1989	5,080	614	290	21
1990	6,544	1,046	560	39
1991	5,858	1,616	1,086	39
1992	8,303	1,552	981	32
1993	8,393	1,490	962	29
1994	9,352	1,909	1,267	40
1995	8,458	1,671	1,010	36
1996	7,835	1,740	1,165	32
1997	8,171	1,702	1,082	30
1998	8,399	1,671	1,140	40
1999	7,459	1,549	1,004	28
2000	6,936	1,610	941	42
2001	6,574	1,739	1,111	29
2002	6,635	1,679	931	23
2003	4,278	1,531	757	18
2004	4,113	1,623	737	10

2002年度より、メンタルヘルスに対応して診療内科が増設された。2003年380人の受診者が2004年度は420人に増加した(増加率10.5%)。

外来受診者が減少する昨今、診療内科の増加はストレスなどメンタルヘルス不全に悩む人が多いことを意味している。

新宿区成人健康診査について

表4に老人保健法による新宿区成人健康診査の経年的受診者数と受診項目を示す。受診者は経年的に増加を示したが2003年を境にやや減少(333人)に転じた。肝炎検診はその受診者が全く少なく(57人)、HCVキャリアの把握が困難である。今後、受診指導が必要である。胃・大腸がん検診はプラトーであり、肺がん検診、子宮がん検診は増加傾向を示している。

乳がん検診182人は視触診のみである。ペプシノゲン検診はわずか27人の受診である。この検診の意味が伝わっていないためと考えられ、今後受診勧奨のための平易な解説が必要である。

表5に新宿区成人健康診査の性別、年齢別受診者数と比率を示す。男女別受診者では男性96人に対し女性237人であり、圧倒的に女性が多い。男性は職域検診受診者が多くと推定される。年齢構成は男性は65歳～69歳が最も多く(26.0%)、女性は70～74歳(21.5%)が多い。

表6に男女別有所見率を示す。男性84.4%、女性89.5%を呈し、有所見率頻度は極めて高い。

表7は有所見率を疾患別に見たものである。男性は高血圧症(34.4%)、高脂血症(29.2%)であり、女性は高脂血症(53.6%)、高血圧症(28.3%)である。

表4 新宿区成人健康診査の検診別受診者数

	成人健診	肝炎検査	胃・大腸	胃単独	大腸単独	肺がん検診	子宮がん検診	乳がん検診	ペプシノゲン検査
1998	131		69	3	13	34	52		
1999	146		74	6	18	46	58		
2000	157		79	5	16	51	59		
2001	243		129	7	28	91	118	62	
2002	327	102	258	11	39	185	271	256	
2003	363	76	223	16	49	178	260	272	42
2004	333	57	224	20	71	208	299	182	27

表5 新宿区成人健康診査の性別、年齢別受診者数・比率

		計	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳～
男	数	96	3	21	25	18	18	11
	%	100.0	3.1	21.9	26.0	18.8	18.8	11.5
女	数	237	52	45	43	51	30	16
	%	100.0	21.9	19.0	18.1	21.5	12.7	6.8
合計	数	333	55	66	68	69	48	27
	%	100.0	16.5	19.8	20.4	20.7	14.4	8.1

表6 新宿区成人健康診査の有所見率

		受診者数	異常なし	異常あり
男	数	96	15	81
	%	100.0	15.6	84.4
女	数	237	25	212
	%	100.0	10.5	89.5
合計	数	333	40	293
	%	100.0	12.0	88.0

表7 新宿区成人健康診査の疾患別、男女別有所見率

受診者数	所見名	高血圧	貧血	肝機能障害	アルコール性肝障害	糖尿病	心疾患	高脂血症	高尿酸血症	腎疾患	呼吸器疾患	その他の所見	合計	
男	数	96	33	10	10	3	13	16	28	11	6	9	10	149
	%	100.0	34.4	10.4	10.4	3.1	13.5	16.7	29.2	11.5	6.3	9.4	10.4	
女	数	237	67	10	17	1	17	26	127	4	51	20	40	380
	%	100.0	28.3	4.2	7.2	0.4	7.2	11.0	53.6	1.7	21.5	8.4	16.9	
合計	数	333	100	20	27	4	30	42	155	15	57	29	50	529
	%	100.0	30.0	6.0	8.7	1.2	9.0	12.6	46.5	4.5	17.1	8.7	15.0	

表8に胃検診による発見疾患を示す。胃炎が最も多く(15.2%)ついで胃潰瘍(11.1%)であった。今回、胃がんの発見者は皆無である。

表9に大腸がん検診を示す。検診法は免疫学的便潜血反応によるスクリーニングである。男性5人(1.7%)、女性3人(1.0%)に異常を認めそれぞれ、基幹病院に紹介した。

表9 新宿区大腸がん検診の要精検者数・比率

受診者数	男	女	異常なし		要精検	
			男	女	男	女
297	84	213	79	210	5	3
100.0%	28.3%	71.7%	26.6%	70.7%	1.7%	1.0%

実施期間 6月～10月

総括

クリニックの受診者数は、経年的に減少傾向にある。医療改革機構による、高齢者の保険負担金の増加は一層、これに拍車をかけることになろう。こういうときにこそ、患者の目線に合わせた、患者サイドにたった医療が望まれる。

一方、新宿区検診は、肝炎検診、ペプシノゲン検診をさらに増やすべきであり、このための受診勧奨が待たれる。最近増加傾向にある乳がんに対しては、MMG(マンモグラフィ)が導入されつつあることは望ましいことである。

表8 胃検診による発見疾患数

団体名 新宿区		(2004年度)																	
性 年齢	所見 受診者数	異常 なし A	切除 胃 B	憩室		胃炎		胃潰瘍*		十二指腸潰瘍*		胃・ 十二指腸潰瘍*		胃ポリープ (疑含む)		胆のう疾患 (疑含む)		その他	
				BD	E	BD	EFG	BD	EFG	BD	EFG	BD	EFG	BD	EFG	D	EFG		
男	～29																		
	30～34																		
	35～39	4	2						1	1									
	40～44	4	4																
	45～49	5	4										1						
	50～54	3	1				1								1				
	55～59	1								1									
	60～64	16	7				2	1	1	3									2
	65～69	15	6	2			4		1	1									1
	70～	19	7	1			3	1	1					3	1				2
	計	67	31	3	0	0	10	2	3	6	1	0	0	1	3	2	0	0	5
女	～29																		
	30～34	1	1																
	35～39	17	11		1					1				2					2
	40～44	21	15				1		1					3					1
	45～49	12	9						1	1				1					
	50～54	17	12				2			2									1
	55～59	37	17		1		5			3			1	5					5
	60～64	17	6	1			4			2	2			1					1
	65～69	22	10		1		7			4									
	70～	33	13		1		5	1	2	2				4	1				4
	計	177	94	1	4	0	24	1	3	15	3	0	0	1	16	1	0	0	14
	合計	244	125	4	4	0	34	3	6	21	4	0	0	2	19	3	0	0	19
	%	100.00	51.23	1.64	1.64	0.00	13.93	1.23	2.46	8.61	1.64	0.00	0.82	7.79	1.23	0.00	0.00	7.79	

注・印は、癒痕を含む A・異常なし B・差支えなし C・要観察 E・要受診 F・要治療 G・要治療継続